

# CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

「アルツハイマー病治療薬の開発を目指して」  
—ASIM プロジェクト及び今後のプロジェクト

治療薬探索研究部

河合 昭好 部長

平成29年7月13日(木) 16時00分～  
第1研究棟2階大会議室

人口の高齢化に伴い、認知症患者は増加の一途を辿り、大きな社会問題となっている。中でも患者数の最も多いアルツハイマー病 (AD) には根治薬が存在せず一日も早い開発が望まれている。これまで製薬会社を始め多くの研究者がその開発に多大の努力を傾けてきたにもかかわらず、未だ有用性が認められた薬剤はなく、有望視された薬剤が相次いで臨床試験で脱落しているのが現状である。

長寿研では AD 病態に基づく創薬標的に関する基礎研究が活発に行われており、当研究部では同定及び検証された標的に対するアカデミア創薬を実施し製薬企業等へのライセンスを通して実用化を目指している。最初のプロジェクトとして、 $A\beta$  の異常重合の開始点として働く病的産物である  $GA\beta$  (ganglioside-bound  $A\beta$ ) を標的とする先制治療薬の研究開発 (ASIM: Anti-Seed Internal Medicine) に取り組んで来た。今回 2 つのリードシリーズの最適化を推し進め、マウスでの Proof of Concept (POC) 取得のための化合物を選択した。現在、マウスでの薬効評価試験が進行中である。

また ASIM に続くプロジェクトとして、タウオリゴマーによって誘導されるシナプス毒性を消去可能な低分子化合物の探索研究にも着手した。現在アッセイ法の開発に取り掛かっており、完了後 High-Throughput Screening (HTS) を計画している。

本報告会では ASIM における 2 つのリードシリーズの最適化と現状、またタウオリゴマープロジェクトの紹介、更には我々のチームの今後の目標についても触れたい。